

はにわ通信

No.283 平成30(2018)年10月号

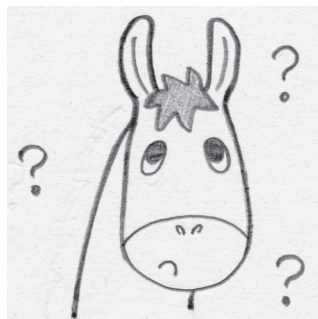
10/27(土)から始まる
特別展で待ってるよ。
見に来てね!



【「常光坊谷4号墳」出土の馬形埴輪からわかる当時の馬の姿や馬具】

松阪市文化財センターは、平成30年10月27日(土)から12月9日(日)にかけて、はにわ館特別展「人とともに生きた馬」を開催します。そこで、今月号では、馬が日本列島にやってきた時期や、松阪で見つかった馬形埴輪からわかる当時の馬の姿や馬具を紹介します。

○馬はいつから日本列島にいるの？



皆さん、馬がいつ頃から日本列島にいるのかご存じですか？土器づくりのはじまった縄文時代からずっといるのでしょうか。それとも、武士が台頭した鎌倉時代頃からでしょうか。あるいは、戦乱が続いた戦国時代からでしょうか…。——答えは、古墳時代からです。

弥生時代末期の日本列島の様子を書いた古代中国の書物『魏志倭人伝』には、「その地には、牛・馬・虎・豹・羊・鵲はいない」という記述があります。このことから、弥生時代の日本列島には、まだ馬はいなかったことがわかります。そして、古墳時代の遺跡から、馬の骨や馬具、馬の飼育に関わる道具が発見されることから、馬は古墳時代(その中でも5世紀頃)に日本列島へやってきたと考えられています。さらに、これら馬に関わる遺物が見つかる遺跡からは、朝鮮半島に由来する土器も見つかるので、馬は朝鮮半島からの渡来人とともに日本列島へやってきたと考えられています。

○常光坊谷4号墳出土の馬形埴輪からわかる当時の馬の姿や馬具



写真1 馬形埴輪(常光坊谷4号墳出土)

朝鮮半島からやってきた馬は、100年も経たないうちに、古墳の上にならべられる埴輪に「馬形埴輪」として取り入れられました。馬形埴輪は、松阪市内でも5世紀後半以降につくられた中ノ庄1号墳・小野江基目1号墳、常光坊谷4号墳などから見つかっています。左の写真を見てください。これは、常光坊谷4号墳から見つかった馬形埴輪です。この馬形埴輪をよく見ると、写実性は低いものの、当時の馬の姿や馬具が表現されていることがわかります。では、それらはどのようなものなのでしょうか。

まず、頭部(写真2)を見てみると、馬の耳の左側に三角形のような形をしたものがあるのがわかります。これは、馬のタテガミの先の部分を束ねた様子を表現したものです。さらに、馬の頭にかける面繫(1)や、綱が交差する部分につける辻金具、ハミ(2)の両端に取りつける鏡板、馬を操るための手綱が表現されています。胴体部(写真3)には、鞍や、足を乗せるための鐙、泥除けの障泥が表現されています。尻部(写真4)には、雲珠という馬を飾るための馬具が表現されており、また、しっぽがたれ下らず上向きに表現されて

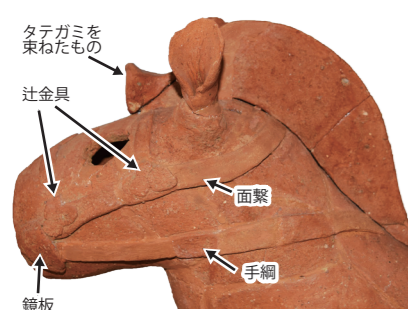


写真2 頭部

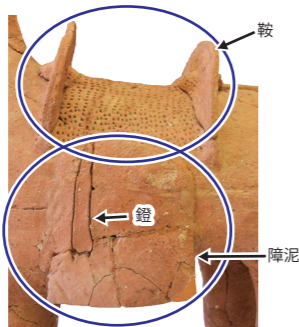


写真3 胴体部



写真4 尻部

(1) くつわ(手綱を付けるため馬の口にかませる金具)をつなぐために馬の頭から両耳を出してかける綱。

(2) くつわの一部で馬の口に含ませておく金属製の棒など。

いるのは、頭部のタテガミと同じように、しっぽを束ねた様子を表現したものと考えられます。

このように様々な馬具を身につけ、タテガミやしっぽを束ねた常光坊谷4号墳の馬形埴輪は、当時の首長などが権勢を示すために所有した「飾り馬」の姿をあらわしていると考えられます。もしかすると、常光坊谷4号墳に埋葬された人物も、古墳の上にならべられた馬形埴輪のような飾り馬を所有していたのかもしれない。(担当)

※今回の記事を書く際、『発掘された馬と渡来人』(2015年、大阪府立近つ飛鳥博物館)、『中部平成台団地埋蔵文化財発掘調査報告書』(1990年、松阪市教育委員会)などを参考にしました。

【天高く 馬肥ゆる秋】

空気が澄み、空も高く、爽やかな風を感じる季節がやってきました。

昼には、豊かな実りの秋を感じに戸外に出かけ、木々の変化に気づき、果物・キノコ・根菜などの秋の味覚を楽しんでみてはどうでしょう。夜には、美しい月を愛で、虫の音や音楽に傾聴し、本を読み耽るなど、秋の夜長をゆったりと過ごしてみたいいかがですか。古代の人たちも、秋の収穫をよるこび、冬に備えて蓄えや準備をしたことでしょう。三内丸山遺跡では、栗や胡桃を栽培してきていたことがわかりました。秋の木の実は、栄養価が高く、保存もできるので、大切な食料だったようです。焼いたり、蒸したり、粉にしてクッキーやパンにもしていたことが「化石」からもわかっています。現代と古代、時間を超えて共通することもたくさんあります。大昔の人々が残した埴輪をみながら、当時のくらしに思いを馳せてみませんか。



秋の深まりとともに、鈴の森公園の木々も葉の色を変え、実を付け、そして落とします。

ギャラリーでは、芸術の秋にふさわしく市民の皆さまの力作がそろった「松阪市美術展覧会」が開催されています。はにわ館第2展示室では、はにわ館特別展「人とともに生きた馬」を催します。馬が人々の生活にどのようにかわり、日本文化に影響を与えてきたのか、特別展でたどってみてください。また、はにわ館図書コーナーでは、「市展夏休みこどもワークショップ」でこどもたちがつくった個性豊かな「皿」の陶芸作品がならんでいます。

秋の文化財センターには是非、お越しく下さい。(所長)



文化財センター はにわ館 & ギャラリーの催し物予定

10月の休館日は、9日(火)、15日(月)、29日(月)、
11月の休館日は、5日(月)、12日(月)、19日(月)、26日(月)です。
開館時間は9:00~17:00です。

【はにわ館】 入館料 100円(18歳以下無料) *入館は16:30まで

第1展示室 ■常設展「宝塚古墳の謎」

第2展示室 ■はにわ館特別展「人とともに生きた馬」 10/27(土)~12/9(日)

第2展示室 ■はにわ館特別展 ミュージアムトーク 10/27(土) 13:30~14:30

第3G ■はにわ館特別展 講演会 11/4(日) 13:30~15:00

演題:「骨からみた古代の馬」 講師:山崎 健さん(奈良文化財研究所 主任研究員)

【ギャラリー】 入場無料

第1・2・3G ■第59回松阪市美術展覧会 第1部(絵画、彫刻・工芸)

9/29(土)~10/6(土) 9:00~17:00 ※最終日は15:00まで

第1・2・3G ■第59回松阪市美術展覧会 第2部(写真、書道)

10/20(土)~10/27(土) 9:00~17:00 ※初日は19:00まで、最終日は15:00まで

【イベント】

はにわ館ロビー★灯りコンサート2018 10/20(土) 17:30~18:30 ※会場は17:15、座席数は90席程度、立ち見も可能です。
出演者:合唱団「うたおに」

第2G ★ワークショップ「勾玉づくり」 11/4(日) 10:00~15:30(受付は15:00まで)

※予約不要、材料費(1セット)100円

【発行】松阪市文化財センター 【電話】0598-26-7330 【HP】https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/bunkazai-center/



バーコード読み取り
(文化財センター情報)